

# Open Campus

オープン

キャンパス



一橋大学 経済学部  
大学院経済学研究科

## 経済学とはどのような学問か、いかに学ぶべきか

経済学部長 岡田 羊祐

経済学は役に立つ学問だと思いますか？経済学の考え方はどんどん変わってきています。また経済学者同士で意見が異なることも珍しいことではありません。経済学は、自然科学のように確固とした発見や事実立脚しているとはいえないようです。自然科学が対象とするのは、広い意味での「モノ」です。「モノ」はちょっとやそっとのことでその性質が変わることはありません。一方、経済学を含めた社会科学が研究対象とするのは、広い意味での「ヒト」です。経済学の対象は人間なのです。人間の考え方は時代とともにどんどん変わっているのです。

でも経済学が役に立たないと言いたいものではありません。人間同士が取り結ぶ「契約」や「合意」、それによって形作られる「制度」は、すべて経済学の対象です。私が言いたいのは、経済学を学ぶ際には、人間に対する興味がその基盤となるべきだということです。お金の動きも技術の変化も、すべて「ヒト」が為すのです。これらの活動に関わる人間の動機やインセンティブを理解しつつ、モノやカネに関わる選択・交換・分配のメカニズムを解明しようとする態度が求められるのです。

皆さんは、家族・クラスメート・学校の先生・アルバイト先の同僚や顧客・お役所などと常に相談しながら日々の生活を送っています。そして、どのような場面であれ、何らかの合意を取り結ぼうとする場合、参照されるべき慣習や規範というものがあるはず。もし、慣習や規範に共通点が見出せなければ、合意形成はそれだけ難しくなります。こういった課題に取り組むのが法学や経済学であり、あるいは人文科学を問わず人間を対象とする学問はすべて、人間同士の合意形成に非常に役立つといえるのです。

最後に経済学部を志望される皆さんにもう一つだけ望むことを申し添えます。それは「言葉」に対する感受性を大切にしてほしいということです。大学では、学期末試験はもとより、ゼミナールでの報告、卒業論文、学内誌への投稿など、フォーマルなコミュニケーションの場がいくつも提供されます。こういった場を通じて、きちんとした内容をお互いに理解しあえるように言葉をつかう能力を鍛えてほしいと思います。このような能力を高める秘訣は、自分も含めて「ヒト」に強い興味を持つことではないかと思えます。それは、経済学を学ぶ際にも、強い動機を皆さんに与えてくれることになるでしょう。

## ◎ゼミナール活動紹介 (財政学・佐藤主光ゼミ)

財政学では国や地方自治体が提供している公共サービス、例えば、学校教育や医療、介護、社会福祉のあり方や、その財源としての税金(所得税や法人税、消費税など)の課題と改革について学びます。近年、日本は少子高齢化が進んでおり、年金などお年寄りの生活を支えるための社会保障の充実が不可欠となっています。その一方、高齢化とともに社会保障のための借金を重ね、現在では国の経済規模の指標であるGDP(国内総生産)の2倍を超える借金を抱えるに至っています。この財政難をどのように乗り切るかも大きな課題です。更に、経済のグローバル化、新興国の台頭、所得格差など新しい経済課題への取り組みも財政には求められています。ゼミでは卒業論文(卒論)の作成を通して、こうした現代的な課題について一緒に考えていきます。

3年生は春・夏学期(4月～7月)に財政学の英語のテキストを輪読します。輪読とは、ゼミの学生(ゼミテンと呼ばれます)が一回あたりに一章ぐらいを目処に予習してきてもらい、教員がランダムに学生を当てて、指定した内容についてまとめてもらいます。その後、皆で質疑をします。どこが当たるかわかりませんので、予習は絶対となります。3年生には4年生のゼミにも参加してもらっています。4年生はこの時期、各自が選んだテーマに即して卒論を作成しているのですが、その途中経過についてゼミの中で報告してもらっています。報告は概ね2時間程度、その後、コメンテーターとなっている学生のまとめと質問を皮切りに、議論をします。4年生のテーマはいろいろですが、最近では医療経済、金融・財政政策、地方税、教育などがあります。変わったところでは、文化の経済学、犯罪の経済学について研究している学生もいます。

3年生には夏学期の終わりまでに卒論のテーマを決めてもらいます。ゼミテンには「問題意識」を持ってもらうよう、敢えて教員がテーマを指定することはしません。自分で取り組む課題について考えてもらいます。学部ゼミでは単に経済学の専門知識を付けてもらうだけではなく、

学生の主体性の向上(「考える力」の育成)を図っています。受験生とは違って、与えられた問題の予め決まった答えを見つけ出すのではなく、自ら何が問題なのかを考え、自分なりの答えを見出してもらうようにしています。夏休み中は、テーマに即した英語の文献を読んでもらい、その内容について3年次の秋・冬学期に順番に報告してもらいます。3年生の報告には4年のゼミテンも参加し、コメントなどをしてもらうようにしています。

このゼミの最終目標は卒論の作成にあります。4年生になったら春・夏学期の報告のほか、11月下旬に卒論報告のための合宿を行います。そこで卒論の骨子をまとめてもらいます。卒論の完成版の提出は翌年の1月31日(期限厳守)となっています。毎年、卒論の提出はちょっとしたゼミのイベントとなっています。

ゼミは勉強するだけの場所ではありません。佐藤ゼミでは毎年、夏休みには登山、冬休みにはスキー合宿をしています。教員の個人的な趣味も兼ねているのですが、ゼミテン同士によく知り合ってもらい、集団行動を身につけてもらうことも狙いとしています。経済学の専門知識を身につけるだけではなく、人間教育の場でもあるわけです。ゼミテン同士の「切磋琢磨」を通じて、互いに高めあう、意外と知らなかった自分の個性を発見してもらう場なのです。一橋大学は伝統的に少人数教育(ゼミ)を重視してきました。ゼミ＝一橋大学教育といっても差し支えないでしょう。高校や予備校とはまったく違う教育がそこにはあります。

### <年間スケジュール>

- 4月 ゼミ選考・新歓コンパ
- 4月～7月 3年生は英語のテキストを輪読、4年生は卒論の報告
- 7月 3年生は卒論のテーマを選択
- 8月 登山合宿
- 7月～11月 3年生はISFJ日本政策学生会議に参加・報告
- 10月～1月 3年生が卒論について第1回の報告
- 11月下旬 4年生は卒論合宿
- 1月31日 4年生は卒論を提出
- 2月 スキー合宿
- 3月 追い出しコンパ

